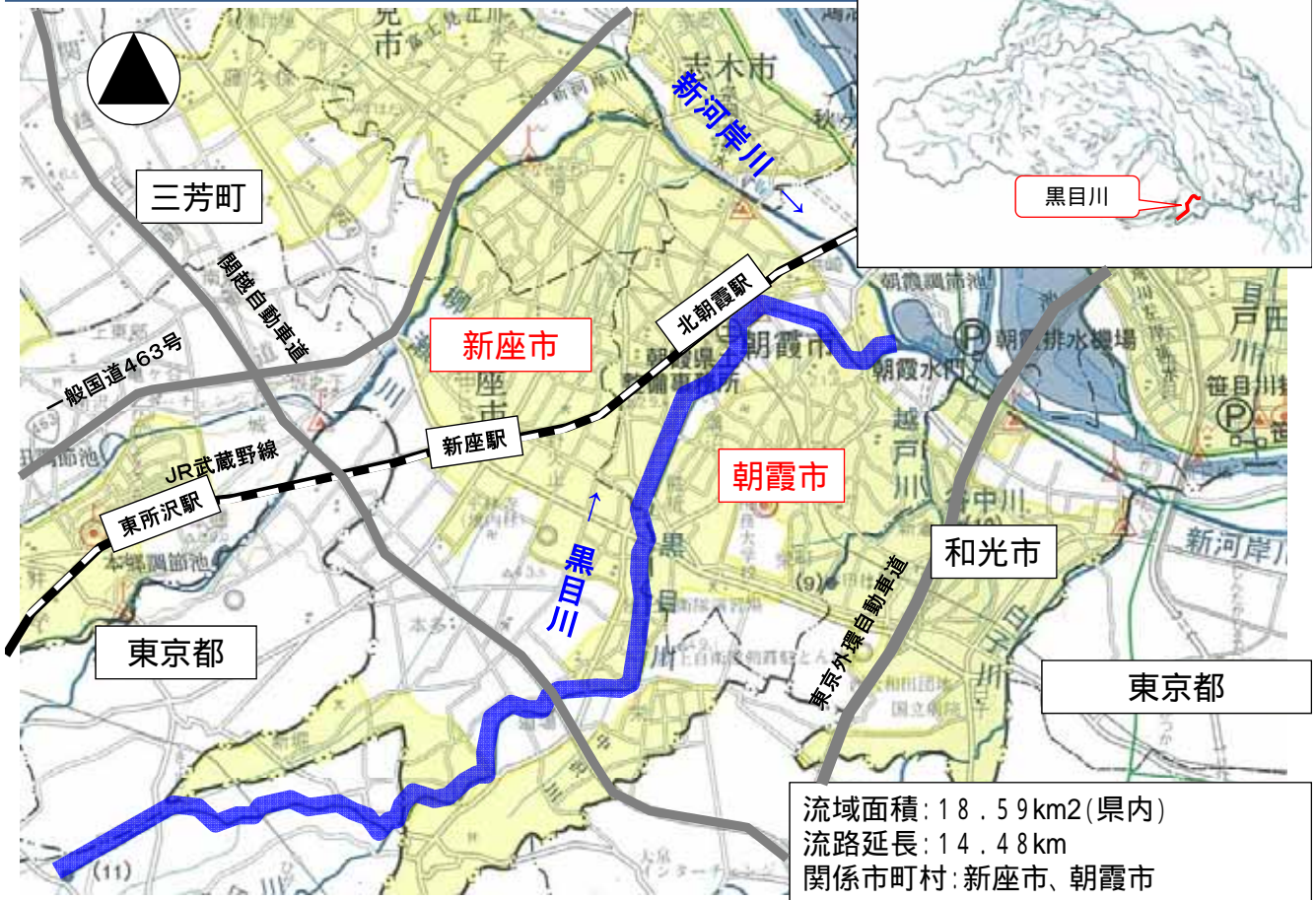


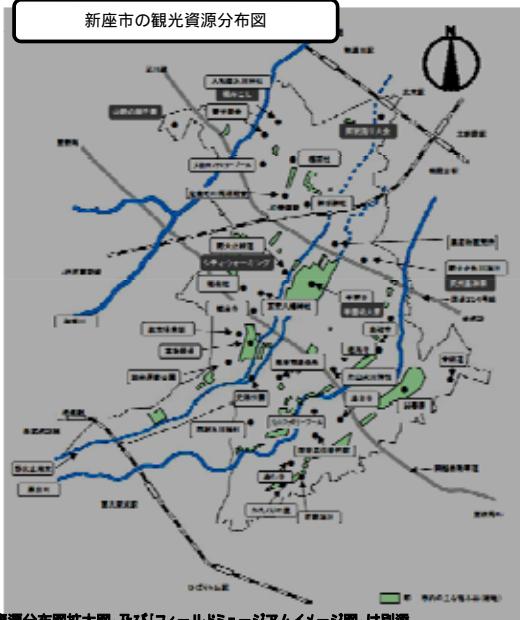
黒目川の概要



新座市

市の将来ビジョンとして掲げる「雑木林とせせらぎのあるまちづくり」を推進するため、妙音沢特別緑地保全地区やキツネノカミソリ、カタクリなどの希少植物などの自然資源や、黒目川流域に点在する法台寺や満行寺などの歴史的資産を繋ぎ合わせるため、「発見の径」(散策路)の整備により回遊性を高め、新たな観光資源として整備を進める。

市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)



まちづくり等の課題

妙音沢特別緑地保全地区やキツネノカミソリなどの自然資源や由緒ある寺社仏閣が点在するが、回遊性が乏しいため、十分に活用されていない。
 まち歩き観光を目指す本市において、野火止用水については、本年周辺自治体を巻き込んで「野火止用水サミット」を開催するなど観光資源としての認知度は高まっているが、それ以外のエリアのルート整備や魅力のPRを行う必要がある。

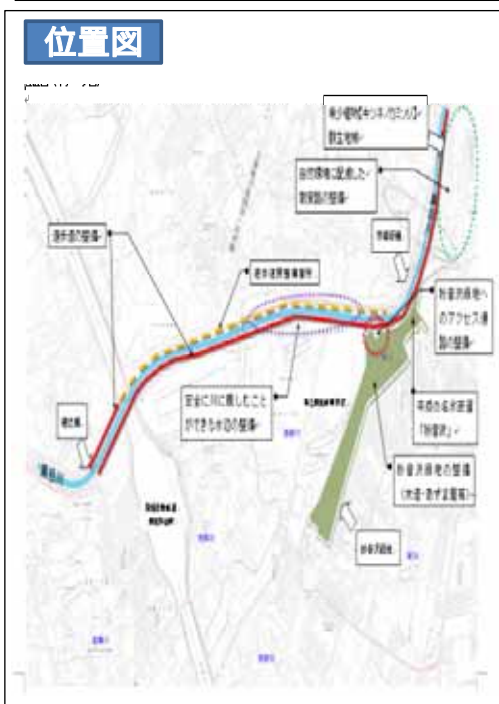
目標・テーマ

地域資源のネットワーク化によるまち歩き観光の推進
 市民と行政が一体となった管理・運営(清掃、環境保全、観光ボランティアガイド等)による、「住んでよし・訪れてよし」のまちづくりの推進

県に実施してほしい取組

新座市では、妙音沢特別緑地内の「平成の名水百選」に選ばれた湧水や「キツネノカミソリ、カタクリ」などの希少植物など黒目川沿いには自然が多く存在しています。そこで、水辺の整備、遊歩道や散策路を整備することにより、ここに訪れるすべての方が安全に安心して休息の時間を楽しむことができます。...

位置図



実施してほしい取組の概要

- アクセス通路として、平成の名水百選に選ばれた湧水の「妙音沢」への遊歩道の整備
- 希少植物の群生地が鑑賞できる自然にやさしい散策路の整備と分断された遊歩道の整備
- 親しみが感じられるよう、子供たちに野外活動として活用できる水辺の整備

工程表

	H24	H25	H26	H27
遊歩道の整備				
水辺の整備				

市町村が取組む事業等の概要(妙音沢特別緑地保全地区・地域)

新座市では、「古都及び緑地保全事業」(国土交通省所管事業)を活用し、平成24年から平成26年の3年間で散策路、休憩施設整備等のハード事業や妙音沢特別緑地の維持管理のためボランティア活動支援などソフト事業を行い、妙音沢特別緑地を活かした「雑木林とせせらぎ」のあるまちづくりを進めています。…

位置図



妙音沢大沢



既存散策路



事業等の概要

希少植物(キツネノカミソリ、カタクリ等)を保全し、新座市の緑の拠点とします。
沢(大小2箇所)を結ぶ散策ルートとして、木道を整備します。
休憩施設の整備を実施し、散策に訪れる方の利便を図ります。。

工程表

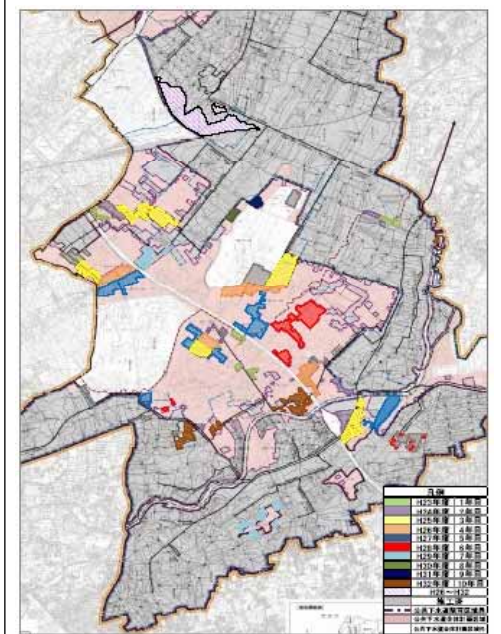
	H24	H25	H26	H27
散策路整備				
休憩施設整備				

市町村が取組む事業等の概要(公共下水道(汚水)10か年整備計画) 様式 - 4

新座市では、公共下水道(汚水)の普及率が平成23年3月31日現在、93.6パーセントとなっておりますが、さらに、「公共下水道(汚水)10か年整備計画」に基づき、平成23年度から平成32年度の10年間で109.7ヘクタールの汚水整備事業を行い、河川への水質汚濁の防止に向けたまちづくりを進めています。…

位置図

汚水整備計画図



事業等の概要

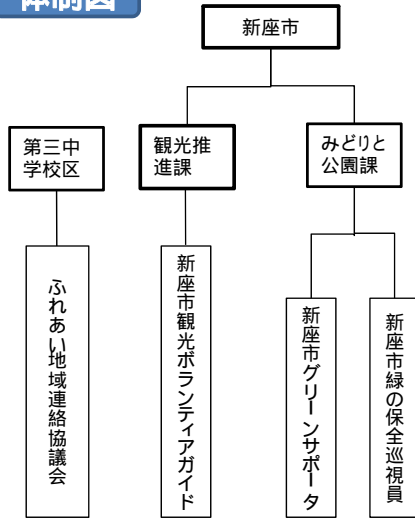
公共下水道の汚水の整備をおこない、河川への水質汚濁を防止します。
市街化調整区域へも公共下水道区域の拡大を図っています。

工程表

	H24	H25	H26	H27
汚水の整備	4.9 ha	8.1 ha	18.5 ha	16.3 ha

妙音沢特別緑地地区の保全と親しみのある河川の活用を図るため、市、緑地保全・観光に関わるボランティア団体、第三中学校区内のふれあい地域連絡協議会とともに取り組んでまいります。また、地域の町内会や各ボランティア団体への支援、拡大を図り、市民の方々と協働で妙音沢特別緑地地区の保全と河川の活性化に向けて維持管理をします。…

体制図



地域連携の概要

「黒目川クリーン作戦」として、中学生、地域の皆さんが河川の美化に努めています。

緑地保全、河川の美化に努める活動をしている地域住民を支援していきます。

「妙音沢クリーンアップ作戦」と銘打ち、市民、企業、行政が一体となって緑地内の大掃除をします。

取組全体のアピールポイント

新座市では、「雑木林とせせらぎ」のあるまちづくりを推進しています。

本取組は、グリーンプロムナードの一拠点を目指すものです。河川の活用と活性化に向けて、地域の方々と取り組んでまいります。

整備された遊歩道は、市が維持管理を行ってまいります。

朝霞市

身近な自然とともに暮らせるまちづくり

様式 - 2

朝霞市都市計画マスタープランの基本方針である「身近な自然とともに暮らせるまちづくり」を実現するため、水に触れられる親水空間の整備や河川に連なる歩行路の整備などを進め、緑の保全と合わせ市民が身近に自然が感じられる環境づくりを行い、これらの自然と市の施設の連携を進めます。

市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)



まちづくり等の課題

黒目川沿いには城山公園やわくわくどーむ、市立図書館など市民の憩いとなる施設が点在しているが、これらが川と連携した施策がなかった。橋の下をくぐる遊歩道が整備されたエリアと、下流の緑の拠点である「わくわく田島緑地」とが遊歩道などでつながっていない。

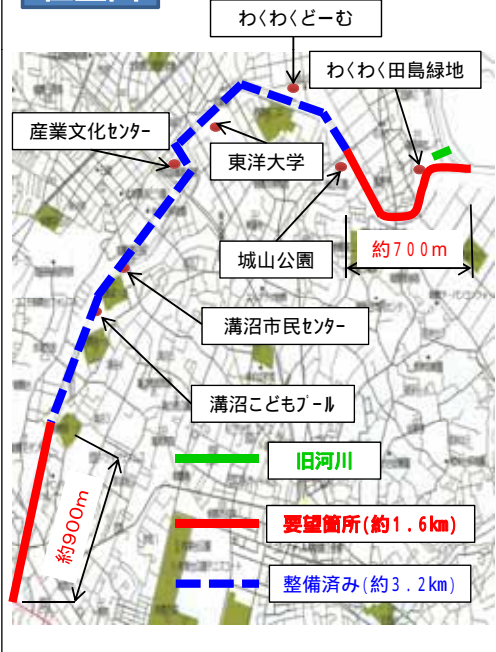
春夏には黒目川花まつりや川まつりなどが行われ、多くの来場者があるが、そこから各施設に、人を呼び込むことができていない。

目標・テーマ

朝霞市都市計画マスタープランまちづくり基本方針より抜粋
斜面林や市街地に残存する緑の保全・活用
水辺空間と一体となった自然軸(河川や緑などを結ぶ空間)の形成と市街地とのネットワーク強化

朝霞市では約3.2キロメートルの黒目川遊歩道が整備されておりますが、その上流・下流は未整備となっております。そこで、アンダーパス等で整備することにより、遊歩道が上流の新座市から下流朝霞市の「わくわく田島緑地」まで連続し、市民を川沿いに点在する各施設まで安全に誘導し、散策やジョギングを楽しんでいただくことができます。

位置図



実施してほしい取組の概要

黒目川遊歩道の上下流への延伸と、花ノ木橋や笹橋など、アンダーパスの整備
 親水空間として、わくわく田島緑地に隣接する黒目川旧川及び新河岸川との合流点の整備

工程表

	H24	H25	H26	H27
遊歩道整備	下流側	下流側	上流側	上流側
旧河川及び合流点整備		整備		

市町村が取組む事業等の概要(黒目川花まつり)

市では黒目川沿いに桜並木を整備してきました。この桜並木を活かし、商工会と連携し、平成19年から「黒目川花まつり」を開催しています。まつりの雰囲気盛り上げるため、市で提灯や灯笼を設置し、露店も立ち並び、朝霞市の春の風物詩として、多くの市民に楽しみにしていただいています。

位置図



事業等の概要

桜の時期に合わせて花まつりを開催しており、商工会と連携することで多くの出店やイベントを行い、川沿いの春の風物詩としてにぎわいを演出していく。
 下流のわくわく田島緑地周辺に桜の植樹を行っているため、花まつりの第2会場として整備を行い、上流と下流の拠点を連結させる。

工程表

	H24	H25	H26	H27
花まつり	開催	開催	開催	開催
第2会場		整備	まつりの拡大	まつりの拡大

市町村が取組む事業等の概要 (桜並木と黒目川花広場) 様式 - 4

黒目川の遊歩道に桜並木を整備するとともに、桜並木の横に黒目川花広場を整備しました。市は春の桜と菜の花の時期に開催される「黒目川花まつり」に協賛し、市民と共に町おこしを実施しています。6月に幼稚園児がキバナコスモスの種まき会を行い、8月に満開となり、花積み会・散歩・ジョキングなど1年を通じて市民に親しんでもらっています。

位置図



事業等の概要

菜の花と黄花コスモスの種まきの継続
ウォーキングやジョキングの休息を兼ねたベンチを広場に設置
毎年恒例となった春の「黒目川花まつり」とは別に、秋のコスモスを生かした新たな祭りを開催する。

工程表

	H24	H25	H26	H27
秋の祭り	検討	検討	開催	開催
ベンチの整備		整備		

市町村が取組む事業等の概要 (黒目川川まつり) 様式 - 4

市民に黒目川に親しんでもらい、黒目川のことをもっと知ってもらうために、複数の市民団体と県、市が連携し、夏と秋に黒目川川まつりを開催しています。子どもを中心に、川に生息する魚をとって水槽に入れて観察する黒目川水族館や、伝統的な投網の体験などを行うほか、参加者による水質調査なども行っています。

位置図



事業等の概要

市民団体と連携して、市民、特に子どもに黒目川に興味を持ってもらえるような、様々なイベントを開催します。
子どもたちといっしょに黒目川に生息する魚をとり、水槽に移し、観察会を実施するなど、川に入り、川と触れ合いながら、川を学び、環境を学ぶ取り組みを進めます。

工程表

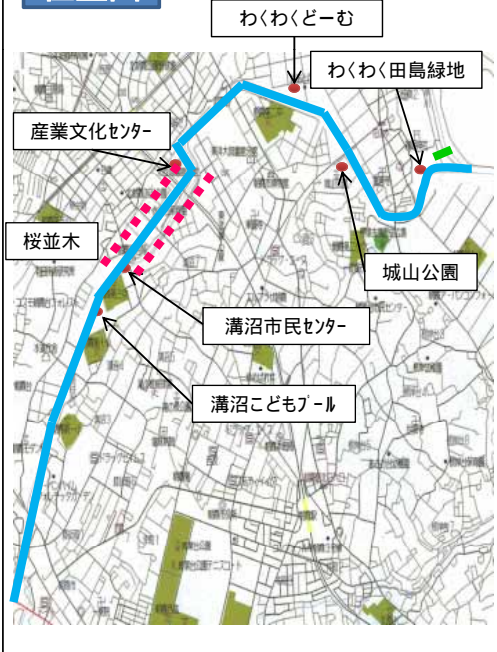
	H24	H25	H26	H27
川まつり	実施	実施	実施	実施
成果の発表				発表

市町村が取組む事業等の概要(田島・膝折地区)

様式 - 4

市民団体と連携して計画を策定し、新河岸川との合流点にわくわく田島緑地を整備し平成23年度に供用を開始しました。今後は市民団体を中心に管理を行ってもらい、市では管理のサポートを行っていきます。また、黒目川沿いの施設と連携が図れ、市民が利用しやすいように、案内板の整備やマップの作成を行います。

位置図



事業等の概要

ボランティア団体が行う行事などに対し、ゴミの回収など支援します。ウォーキングやジョギングの目安となるよう、遊歩道の案内板の整備やマップづくりをします。整備された遊歩道に対し、維持管理(穴ぼこ、フェンス破損などの修繕)をします。

工程表

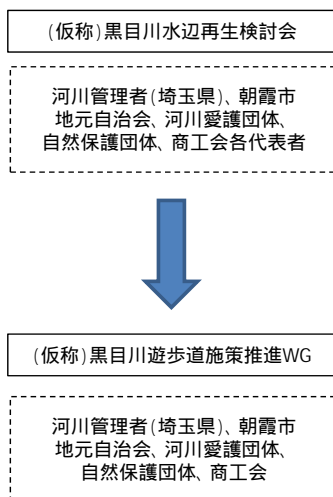
	H24	H25	H26	H27
マップづくり				製作
案内板の整備		整備		整備

地域連携・維持管理等の概要

様式 - 5

(仮称)黒目川水辺再生計画は、河川管理者や河川愛護、自然保護団体・地域住民とともに検討します。現在、遊歩道等の清掃活動をしているボランティア団体への支援を継続し、地域住民と協働で河川・遊歩道の維持管理をします。

体制図



地域連携の概要

(仮称)黒目川水辺再生計画は、地域住民等の関係者間で広く意見交換して検討します。良好な景観のために活動を行っている地域住民を支援していきます。朝霞市は清掃活動を行っている地域住民と協働で、整備された遊歩道の維持管理を行います。団体や地域住民が主体となるよう取組み、総合振興計画の目標の一つであるパートナーシップによるまちづくりを推進します。

取組全体のアピールポイント

朝霞市では、市の将来像を「～水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞～」と考えています。本取組は、遊歩道の延伸や親水空間の整備を行うことにより、市民が身近に水辺に親しめる環境づくりを目指すものです。朝霞市民は、他市民と比較しても清掃活動などに積極的です。